

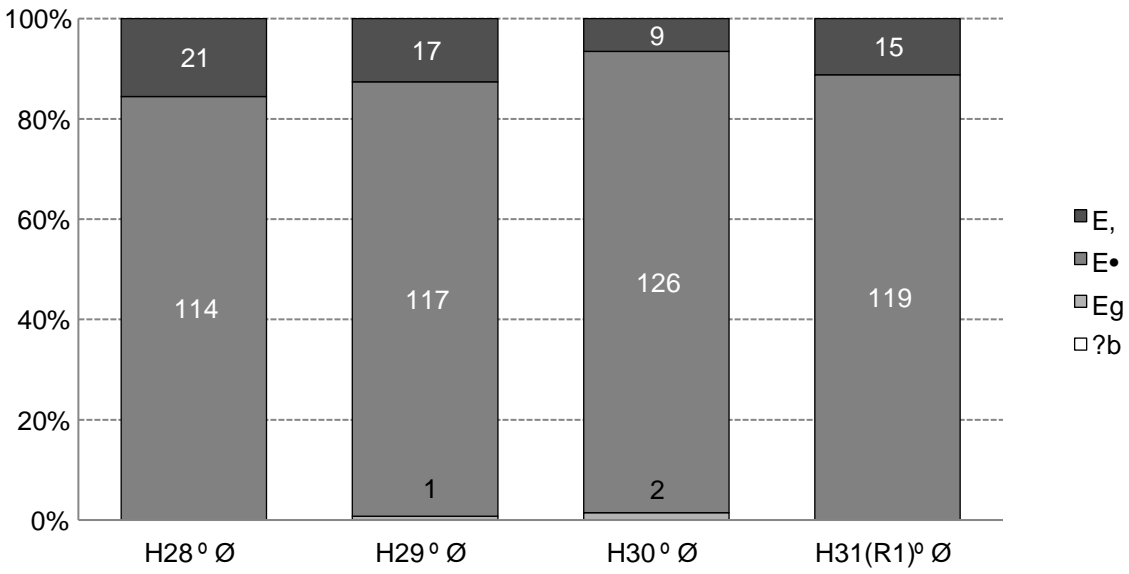
<sup>1</sup>B 31>&çô->' °Ø0£#î <"g#b!èlg  
 0Ûo\_€• ìi  
 çô 2 ° 6 v 0Ûo

>/>,2f "

- ìi c ±7'±Û0Ûo » <0[8o " 5 \_ u}€S\>~ <sup>1</sup>B 31>&çô->' ° Ø0£#î \_ P M • >4Š•?}b+- kll è0Ûo) Ýlg ) Ý \_ P M •0Ûo [ b è0É) Ý †ö\_
- Û\KZb <sup>1</sup>B 31>&çô->' °Ø0£#î b <"g#x f € S v) 1"8ÿ^]†°K S v b[6
- 

>0>,r Ó

<sup>1</sup>B 31>&çô->' °Ø0£#î b 1348o% \_ X 8 Z ,#.líjÛ6xx 4Š•\_|•+- kll è0Ûo)  
 o) Ý†2Ãr< 0Ûo \_>8Z Qb <"g#† è0ÉK S) Ý†W 1\_&g M  
 Ô jc Ñ \è0ÉK S8o% @ 10G#[6~ °Ø0£#î †4) B [A S" g # \0•: G \ @  
 [A• ^> +- kll è0Ûo) Ýlg è0É) Ý b² Ûlg4Š•H \b7ÿ0£) Ý \_ X 8 Z c 9  
 (i\_&g M çô 2 ° Ø è7F v" 3 †p †% †b4) B \_ ¥ E Z ›°Ø0£#î b%T ^ < @ 20[  
 [6•



WH " 3 †p †% ††6ë F0FÚFáG °Ø0£#îFp, kll è0Ûo) Ý Fp N&ã

>: <sup>1</sup> B 31>&çô - >' ° Ø ±7' ± Û+- kll è0Ûo) Ý<<	
Ô>8 ° Ø0£#î † V G W Z4) B K S	158o% >&1.2%'
Ñ>8 ° Ø0£#î †4) B K S	1198o% >&8.8%'
1>8 ° Ø0£#î † ( _ c4) B K ^ ? W S	08o% >&0.0%'
™>8 ° Ø0£#î †4) B K Z 8 ^ 8	08o% >&0.0%'





















## 平成 31 (令和元) 年度計画実施状況の点検及び評価結果 まとめ

### <目次>

【全学】	1
【教育学部・教育学研究科】	2
【地域科学部・地域科学研究科】	3
【医学系研究科・医学部】	3
【工学部・工学研究科】	3
【応用生物科学部・共同獣医学研究科】	4
【自然科学技術研究科】	4
【連合農学研究科】	4
【連合獣医学研究科】	5
【連合創薬医療情報研究科】	5
【図書館】	5
【教育推進・学生支援機構】	6
【研究推進・社会連携機構】	6
【グローバル推進機構】	7
【情報連携統括本部】	8
【地域協学センター】	8
【流域圏科学研究センター】	9
【保健管理センター】	9
【医学教育開発研究センター】	9
【附属病院】	10
【附属学校】	10
【総合企画部】	10
【人材開発部】	11
【財務部】	11
【施設環境部】	11
【研究推進部】	12
【学務部】	12
【監査室】	12
【70周年プロジェクト事務局】	12
【新学部設置準備室】	13
【平成 29 年度において課題とした項目への取組状況】	14

#### (自己評定の判断)

- Ⅳ：年度計画を上回って達成した。
- Ⅲ：年度計画を達成した。
- Ⅱ：年度計画を十分には達成しなかった。
- Ⅰ：年度計画を達成していない。
- －：非該当

※全学はⅠ～Ⅳ、×～◎で判断する。

#### (検証結果の判断)

- ◎：年度計画を上回って達成した。
- ：年度計画を達成した。
- △：年度計画を十分には達成していない。
- ×：年度計画を達成していない。
- －：非該当

**【全学】**

		自己評定				計
		IV	III	II	I	
検証結果	◎	13	2	0	0	15
	○	9	110	0	0	119
	△	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0
計		22	112	0	0	134

※数値は年度計画数。網掛けは自己評定と検証結果が一致した年度計画数。以下同様。

**（優れた取組）**

前述の p. ii ~vii（3.優れた取組）を参照

**【教育学部・教育学研究科】**

		自己評価					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	3	0	0	0	0	3
	○	0	42	0	0	0	42
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	0	0
計		3	42	0	0	0	45

**（優れた取組）**

■自己評価が「IV」であり、検証結果が「◎」である年度計画

・年度計画 1-2：（教育学研究科）教職大学院（学校管理職養成コースと教育実践開発コース）において新しいカリキュラムに基づいた教育を実施するとともに、岐阜県教育委員会と連携した学校管理職養成モデルとして、「スクールリーダー養成研修（学校管理職養成講習）」及び新たに「初任者教頭研修」の一部を実施する。

検証結果：参加者を拡大して「スクールリーダー養成研修（学校管理職養成講習）」及び「初任者教頭研修」を実施した上、「スクールリーダー養成研修」において参加者より高い評価を得ている点は、年度評価を上回って達成したと判断します。

・年度計画 51-1：（教育学部）附属学校は、教育学部と教育学研究科の教員の受入を積極的に進める。教育学部と教育学研究科は、ミッションの再定義で明らかにした目標値を目指して、教員の学校現場での指導経験割合を70%以上に高める。

検証結果：大学教員の学校現場における指導経験割合が年度計画の70%を大幅に超えているため、年度計画を上回って達成したと判断します。

・年度計画 51-1：（教育学研究科）附属学校は、教育学部と教育学研究科の教員の受入を積極的に進める。教育学部と教育学研究科は、ミッションの再定義で明らかにした目標値を目指して、教員の学校現場での指導経験割合を70%以上に高める。

検証結果：大学教員の学校現場における指導経験割合が年度計画の70%を大幅に超えているため、年度計画を上回って達成したと判断します。

**【地域科学部・地域科学研究科】**

		自己評定					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	1	0	0	0	0	1
	○	0	33	0	0	0	33
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	0	0
計		1	33	0	0	0	34

**(優れた取組)**

■自己評定が「IV」であり、検証結果が「◎」である年度計画

・年度計画 42-2：(地域科学部) 地域科学部の国際教養コースにおける教育プログラムに従い、日本人学生の海外留学のために1、2年生を対象に3科目の国際教養コース向け留学準備科目及び2科目の異文化理解科目、2科目の留学希望者用の外国語科目を開講し、学部から3～5名程度の日本人学生を海外留学に派遣する。また、学部において混在科目を開講する。加えて、これらの科目の内容等について検証する。グローバル推進機構は、学生の海外派遣に係る手続きや生活相談などの支援をする。

検証結果：留学した学生数が目標を超えているため、年度計画を上回って達成したと判断します。

**【医学部・医学系研究科】**

		自己評定					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	0	0	0	0	0	0
	○	0	37	0	0	0	37
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	0	0
計		0	37	0	0	0	37

**【工学部・工学研究科】**

		自己評定					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	0	0	0	0	0	0
	○	0	34	0	0	0	34
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	1	1
計		0	34	0	0	1	35

【応用生物科学部・共同獣医学研究科】

		自己評定					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	0	0	0	0	0	0
	○	1	31	0	0	0	32
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	3	3
計		1	31	0	0	3	35

【自然科学技術研究科】

		自己評定					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	0	0	0	0	0	0
	○	0	16	0	0	0	16
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	0	0
計		0	16	0	0	0	16

【連合農学研究科】

		自己評定					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	1	0	0	0	0	1
	○	0	16	0	0	0	16
	△	0	0	0	0	1	1
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	4	4
計		1	16	0	0	5	22

（優れた取組）

■自己評定が「IV」であり、検証結果が「◎」である年度計画

・年度計画 38-1：引き続き卒業・修了する留学生の進路状況アンケートを実施し、各部局が集約した情報を基にグローバル推進本部が作成するメーリングリストを活用して、卒業・修了した外国人留学生のネットワーク構築を引き続き推進するとともに、より効果的な方策について検討する。

検証結果：ラウンドテーブル及び国際シンポジウムの開催により、修了した留学生のネットワーク構築につながっている点は、年度計画を上回っていると判断します。

**(課 題)**

■自己評定は「-」であるが、検証結果は「△」である年度計画

・年度計画 14-1：前年度の検討結果や新たなアドミッション・ポリシーなどを踏まえ、入学者選抜方法を改善する。特に学部にあつては、2020年度に実施される大学入学共通テストを見据えて、面接等、学力の3要素に対応した多面的・総合的な選抜方法の詳細を策定し公表する。

検証結果：入学者選抜方法の改善につながっていないため、年度計画を十分には達成していないと判断します。

**【連合獣医学研究科】**

		自己評定					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	0	0	0	0	0	0
	○	0	13	0	0	1	14
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	6	6
計		0	13	0	0	7	20

**【連合創薬医療情報研究科】**

		自己評定					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	0	0	0	0	0	0
	○	0	20	0	0	0	20
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	0	0
計		0	20	0	0	0	20

**【図書館】**

		自己評定					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	0	0	0	0	0	0
	○	0	5	0	0	0	5
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	0	0
計		0	5	0	0	0	5



**【教育推進・学生支援機構】**

		自己評定					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	0	1	0	0	0	1
	○	0	18	0	0	0	18
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	1	0	0	4	5
計		0	20	0	0	4	24

**(優れた取組)**

■自己評定は「III」であるが、検証結果は「◎」である年度計画

・年度計画 6-1：全学部において全学共通教育の英語技能別カリキュラム（英語 1：Speaking, 英語 2：Listening, 英語 3：Reading, 英語 4：Writing）を継続するとともに、授業内容・方法・教材等を改善する。

検証結果：英語科目における改善のみならず、他大学との討論会を開催した点は、年度計画を上回って達成したと判断します。

**【研究推進・社会連携機構】**

		自己評定					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	2	1	0	0	0	3
	○	0	34	0	0	0	34
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	0	0
計		2	35	0	0	0	37

**(優れた取組)**

■自己評定が「IV」であり、検証結果が「◎」である年度計画

・年度計画 19-1：地産地消のエネルギーシステム構築に向け、エネルギー生産、貯蔵、利用、マネジメントシステム等の要素技術の研究開発に取り組む。

検証結果：地産地消のエネルギーシステム構築に向けた取組が評価され、「地球環境大賞 文部科学大臣賞」を受賞した点は年度計画を上回って達成したと判断します。

・年度計画 35-3：知的財産の創出活動を支援するとともに、優れた知的財産の広報活動を行う。

検証結果：発明届数が例年比 20%増加した点は、年度計画を上回って達成したと判断します。

■自己評定は「III」であるが、検証結果は「◎」である年度計画

・年度計画 23-1：金型分野における生産技術等の研究及び複合材料分野における物質開発、生産技術の研究を推進する。

検証結果：研究推進の結果、新規エラストマー物質の開発に成功した点は年度計画を上回って達成したと判断します。

**【グローバル推進機構】**

		自己評定					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	1	3	0	0	0	4
	○	0	25	1	0	0	26
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	0	0
計		1	28	1	0	0	30

**(優れた取組)**

■自己評定が「IV」であり、検証結果が「◎」である年度計画

・年度計画 37-1: インド工科大学グワハティ校、マレーシア国民大学とのジョイントディグリー・プログラムを開始する。また、海外協定大学とのダブルディグリー・プログラム、ツイニング・プログラム、サンドイッチ・プログラム及び流域水環境リーダー育成プログラムを継続して推進し、これらプログラムへの参加（在籍）学生数 70 人以上を目指す。

検証結果：目標を上回る 73 名が対象プログラムに在籍した点は、年度計画を上回って達成したと判断します。

■自己評定は「III」であるが、検証結果は「◎」である年度計画

・年度計画 38-2: 愛岐留学生就職支援コンソーシアム及び岐阜地域留学生交流推進協議会の枠組みを活用して企業との連携を強化し、インターンシップエントリー企業数を参加学生の 1.5 倍以上に拡充する。

検証結果：企業との連携を強化し、インターンシップエントリー企業数を参加学生の 7.5 倍以上に拡充した点は、年度計画を上回って達成したと判断します。

・年度計画 39-1: 海外留学経験者ネットワークの充実及び活動の点検と役割の明確化により、派遣を推進する。

検証結果：派遣を推進した結果、目標人数の倍以上の学生を海外へ派遣した点は、年度計画を上回って達成したと判断します。

・年度計画 42-2: 地域科学部の国際教養コースにおける教育プログラムに従い、日本人学生の海外留学のために 1、2 年生を対象に 3 科目の国際教養コース向け留学準備科目及び 2 科目の異文化理解科目、2 科目の留学希望者用の外国語科目を開講し、学部から 3～5 名程度の日本人学生を海外留学に派遣する。また、学部において混在科目を開講する。加えて、これらの科目の内容等について検証する。グローバル推進機構は、学生の海外派遣に係る手続きや生活相談などの支援をする。

検証結果：留学した学生数が目標を超えているため、年度計画を上回って達成したと判断します。

**【情報連携統括本部】**

		自己評価					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	0	0	0	0	0	0
	○	0	12	0	0	0	12
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	0	0
計		0	12	0	0	0	12

**【地域協学センター】**

		自己評価					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	3	0	0	0	0	3
	○	2	13	0	0	0	15
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	0	0
計		5	13	0	0	0	18

**(優れた取組)**

■ 自己評価が「IV」であり、検証結果が「◎」である年度計画

・ 年度計画 26-1：「地域志向人材」育成を目指した「次世代地域リーダー育成プログラム」を実施し、修了生を 20 名以上とする。

検証結果：目標を超える 31 名のプログラム修了生を輩出したため、年度計画を上回って達成したと判断します。

・ 年度計画 29-1：自治体との連携強化を図り、事業を継続的・発展的に推進するため、地域協学センターの教育職員を自治体に派遣する制度を整備する。

検証結果：地域協学センターの教育職員を自治体に派遣する制度の整備にとどまらず、実際に地域創生コーディネーターを派遣した点は、年度計画を上回って達成したと判断します。

・ 年度計画 30-1：地域コミュニティ再生に向けたプロジェクトを実施し成果を地域に向けて情報発信することに加え、地域コミュニティの再生を担うコーディネート人材の育成を進める体制整備を行う。

検証結果：体制整備にとどまらず、地域学校協働活動推進員等育成研修により、コーディネート人材の育成を実施した点は、年度計画を上回って達成したと判断します。

**【流域圏科学研究センター】**

		自己評定					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	1	0	0	0	0	1
	○	2	13	0	0	0	15
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	0	0
計		3	13	0	0	0	16

**(優れた取組)**

■自己評定が「IV」であり、検証結果が「◎」である年度計画

・年度計画 31-1：『地域戦略ビジョン』に基づき、取組を継続して実施し、実施内容の検証及び改善を行う。

検証結果：地域減災研究センターと連携し、研究成果の社会実装を進めた点は、年度計画を上回って達成したと判断します。

**【保健管理センター】**

		自己評定					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	0	0	0	0	0	0
	○	0	15	0	0	0	15
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	0	0
計		0	15	0	0	0	15

**【医学教育開発研究センター】**

		自己評定					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	0	0	0	0	0	0
	○	0	2	0	0	0	2
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	0	0
計		0	2	0	0	0	2

**【附属病院】**

		自己評定					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	0	0	0	0	0	0
	○	0	21	0	0	1	22
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	3	3
計		0	21	0	0	4	25

**【附属学校】**

		自己評定					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	0	0	0	0	0	0
	○	0	9	0	0	0	9
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	0	0
計		0	9	0	0	0	9

**【総合企画部】**

		自己評定					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	1	0	0	0	0	1
	○	0	19	0	0	0	19
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	0	0
計		1	19	0	0	0	20

**(優れた取組)**

■自己評定が「IV」であり、検証結果が「◎」である年度計画

・年度計画 78-1：効果的な情報発信を行うため、民間の広報会社と連携したプレスリリースや学長記者会見等の複数の方法により情報発信を実施する。また、広報効果の分析に向けて戦略的広報サイクルのデータを蓄積したものの効果を検証し、評価する。その他発信した情報について成果の点検を行う。

検証結果：広報効果の分析に関して、外部コンサルタントに頼らず戦略的プレスリリース実施の可否を判断できる体制を整備した点は、年度計画を上回って達成したと判断します。

**【人材開発部】**

		自己評定					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	0	0	0	0	0	0
	○	0	18	0	0	0	18
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	0	0
計		0	18	0	0	0	18

**【財務部】**

		自己評定					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	0	0	0	0	0	0
	○	0	12	0	0	0	12
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	0	0
計		0	12	0	0	0	12

**【施設環境部】**

		自己評定					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	1	0	0	0	0	1
	○	0	12	0	0	0	12
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	0	0
計		1	12	0	0	0	13

**(優れた取組)**

- 自己評定が「IV」であり、検証結果が「◎」である年度計画
- ・ 年度計画 82-2：環境活動計画を策定し、着実に実施する。

検証結果：環境活動計画に基づく取組が社会に高く評価され、多数の受賞を得たことは、年度計画を上回って達成したと判断します。

**【研究推進部】**

		自己評定					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	0	0	0	0	0	0
	○	0	6	0	0	0	6
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	0	0
計		0	6	0	0	0	6

**【学務部】**

		自己評定					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	0	0	0	0	0	0
	○	0	7	0	0	0	7
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	1	0	0	0	1
計		0	8	0	0	0	8

**【監査室】**

		自己評定					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	0	0	0	0	0	0
	○	0	2	0	0	0	2
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	0	0
計		0	2	0	0	0	2

**【70周年プロジェクト事務局】**

		自己評定					計
		IV	III	II	I	-	
検証結果	◎	0	0	0	0	0	0
	○	0	3	0	0	0	3
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	0	0
計		0	3	0	0	0	3

**【新学部設置準備室】**

		自己評定					計
		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	-	
検証結果	◎	0	0	0	0	0	0
	○	1	0	0	0	0	1
	△	0	0	0	0	0	0
	×	0	0	0	0	0	0
	-	0	0	0	0	0	0
計		1	0	0	0	0	1



## 【平成 30 年度において課題とした項目への取組状況】

平成 30 年度自己点検評価報告書において課題とした 2 項目について、関連する平成 31（令和元）年度計画の実施状況・検証結果を確認した。これらの状況から、平成 30 年度に課題とした項目は概ね達成したことが分かる。

### 【地域協学センター】

	平成 30 年度計画	関連する平成 31（令和元）年度計画
計 画	30-2 産業界ニーズに適合した人材育成を目指す「次世代地域リーダー育成プログラム産業リーダーコース」を実施し、修了生を輩出する。  《地協、教学》	30-2 産業界・地域のニーズに適合した人材育成を目指す「次世代地域リーダー育成プログラム」を専門教育と連携して統合的・発展的に実施する制度を整備する。  《地協、教学》
実 施 状 況	<p>Ⅲ：・「次世代地域リーダー育成プログラム」を継続実施し、産業界ニーズに適合した人材育成に取り組んだ（修了生 30 人を目標）。</p> <p>・参加大学共通プログラムとして、企業見学会（7 回）、サマースクール（中濃圏域・3 コース）、企業向け成果発表会（1 回）を実施した。</p> <p>・「次世代地域リーダー育成プログラム」を 39 人（産業リーダーコース 16 人）が修了した。</p> <p>＜開講科目数＞ 地域志向科目群 10 科目、地域実践科目群 10 科目、次世代産業リーダー育成科目群 5 科目</p> <p>＜開講科目受講者数＞ 地域志向科目群 903 人、地域実践科目群 221 人、次世代産業リーダー育成科目群 251 人</p> <p>＜参加大学共通プログラム参加者数＞ 企業見学会のべ 162 人、サマースクール 59 人、企業向け成果発表会 34 人</p> <p>＜教育効果＞（産業界が求める「5 つの力」の修得状況） ○受講者（学生）による自己評価（ループリックによる 5 段階評価） 俯瞰力：初級段階平均 2.81 上級段階平均 3.81 共同推進力：初級段階平均 2.90 上級段階平均 3.76 駆動力：初級段階平均 2.85 上級段階平均 3.67</p>	<p>Ⅳ：岐阜県が推進する「産学金官連携人材育成・定着プロジェクト」と連携し、「次世代地域リーダー育成プログラム」内に工学部機械工学科の専門科目を設置すること（平成 29 年度～）、地域科学部との連携のもと同学部の専門科目をプログラム上級段階科目に位置づけること（平成 30 年度～）に加え、今年度からは、「次世代地域リーダー育成プログラム規程」を改訂し、教育学部の専門教育（ぎふ清流入試枠の学生対象）と連動した「教育リーダーコース」を「次世代地域リーダー育成プログラム」内に設置して、制度整備に加え、「教育リーダーコース」の運用をスタートさせ、年度計画を上回って、学部専門科目と連携したプログラムを展開し地域のニーズに適合した人材育成を進めることができた。</p> <p>また、高大連携事業として、県内高校生を対象とした「宇宙工学講座」を、岐阜県、各務原市、岐阜県教育委員会、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館及び岐阜工業高等専門学校と連携して実施し、テレビ会議システムを利用した各高校での講義受講のほか、宇宙航空研究開発機構（JAXA）等の見学も行き、最先端の宇宙教育を提供し、航空宇宙にかかる人材育成に寄与することができた。</p> <p>＜制度整備に加え、「教育リーダーコース」の運用をスタートさせ、年度計画を上回って、学部専門科目と連携したプロ</p>

	<p>課題解決力:初級段階平均 2.68 上級段階平均 3.51  地域志向力:初級段階平均 2.56 上級段階平均 3.50  ○教員による他者評価 (ルーブリックによる 5 段階評価)  俯瞰力:初級段階平均 2.61 上級段階平均 3.49  共同推進力:初級段階平均 2.68 上級段階平均 3.58  駆動力:初級段階平均 2.71 上級段階平均 3.68  課題解決力:初級段階平均 2.64 上級段階平均 3.82  地域志向力:初級段階平均 3.33 上級段階平均 4.25</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岐阜県内就職率 (平成 27~29 年度) を見てみると、全学が約 41%であるのに対して、次世代地域リーダー育成プログラム修了生は約 70%、「ぎふ次世代地域リーダー」称号授与者は約 73%となっており、次世代地域リーダー育成プログラムは、若者の「地元定着・地元就職」にも寄与している。</li> <li>・福井 COC+事業推進協議会との共催による「称号サミット」を実施し、県域を越えた事業の水平展開を図った。</li> </ul>	<p>グラムを展開し地域のニーズに適合した人材育成を進めることができた。&gt;</p>
<p>検証結果</p>	<p>△：産業リーダーコースの修了生 16 名であり、30 名を上回らなかつたため、年度計画を十分には達成していないと判断します。</p>	<p>○</p>

【人材開発部】

	平成 30 年度計画	関連する平成 31 (令和元) 年度計画
<p>計画</p>	<p>56-1 教育研究院において、各部局から提出された人事計画を審議し、全学的な戦略に基づき、若手教員の雇用を促進する。</p> <p>《人材》→【全学、自研、連農、連獣、連創、全センター、病院】</p>	<p>56-1 教育研究院において、各部局から提出された人事計画を審議し、若手教員の雇用を促進する。</p> <p>《人材》→【全学、医研、連農、連獣、連創、教学、研社、グローバル、情連、全センター、病院】</p>
<p>実施状</p>	<p>II：平成 29 年度に設置した教育研究院において、①本学の将来構想、中期目標・中期計画に資するもの、②若手及び女性教</p>	<p>III：教育研究院において、本学の将来構想、中期目標・中期計画に資するもの、若手及び女性教員の雇用促進に資するものを</p>

<p>況</p>	<p>員の雇用促進に資するものを検証の視点と定め、効果的な教員の採用及び配置について審議した。</p> <p>平成 31 年度から 5 年間の基本計画を策定し、教育研究院において毎年度各部局の人事計画を検証した。各部局は、年度ごとに試算した人件費総額シーリングを基に割り当てられた使用可能ポイントの範囲内で人事計画を作成した。</p> <p>教員人事検討 WG を設置し、第 3 期中期目標期間終了後の予算配分方針が不透明であること、名古屋大学との法人統合等、状況が流動的であることから、基本計画の対象期間を平成 33 年度までに変更した。</p> <p>平成 31 年 3 月 1 日現在、若手教員（40 歳未満）の比率は 16.3%（114 名）となっている。</p>	<p>検証の視点と定め、効果的な教員の採用及び配置について審議している。さらに、令和 2 年度以降の人件費総額シーリング及び教員人事基本計画の見直しを行った。</p> <p>令和 2 年 3 月 31 日現在、若手教員の在職割合は、16.8%（116 名）で、昨年度（16.3%）から上昇している。</p>
<p>検証結果</p>	<p>△：若手教員の割合が減少傾向にあり（H29：17.5% H30：16.3%）、若手教員の雇用促進ができていないため、年度計画を十分には達成していないと判断します。</p>	<p>○</p>